

特集 草原の守り人



受け継がれてきた草原―

訪れる人を魅了する阿蘇。阿蘇中岳火口をはじめとする多様な自然景観の中で、阿蘇の風景として象徴されるものは山々に広がる草原ではないでしょうか。

森林に匹敵する水源涵養力を持つと言われている草原は、希少な動植物のすみかでもあり、阿蘇の地域経済を支える農業や観光の基盤となっています。

その雄大な草原は、自然に形成されたものではなく、野焼き、採草、放牧という農業の営みによって保たれてきました。阿蘇の草原は千年以上も前から維持されており、私たちの時代まで人の手により守り引き継がれているのです。

しかし、経済的な理由や時代の流れによる生活様式の変化が重なり合い、野草を利用する農家が減少し、草原の維持が難しくなっています。

豊かな恵みを与える草原をどう守るかは、阿蘇に生きる人々の課題でもあるのです。

減りゆく草原

＜草原の減少要因＞

- ①後継者不足、畜産農家の減少、家畜頭数の減少など
 - ②未利用草地在が拡大
 - ③可燃物が増加
 - ④野焼きの危険性の増大
- 野焼きができなくなり、雑木が生え繁ることで、草原が荒廃していく。



出典：(財)国立公園協会「自然景観地における農耕地・草地の景観保全管理手法に関する調査研究」



草原再生オペレーター組合

阿蘇の地域資源である野草を収集するため、平成18年に草原再生オペレーター組合が組織されました。草原を守る新しい担い手集団は、地域活性化と草原再生、新たな担い手育成を目指しています。

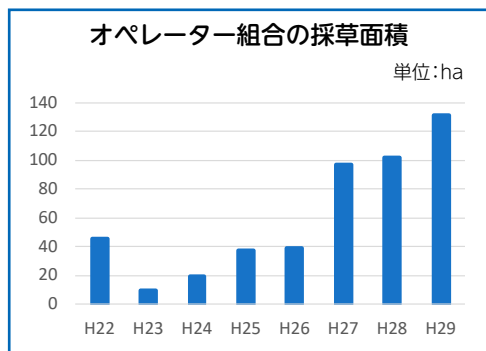
草原を活かすー

草を刈り草地を保全

草原再生オペレーター組合は、草原に存在する未利用の野草をエネルギーとして利用するために、採草する団体として誕生しました。現在も野草の刈り取りを継続して実施しており、草原の保全と野焼きの危険性の軽減につながっています。

刈取った野草の活用

刈取った野草は、飼料(牛馬のエサ)や堆肥用の資材として活用することで、地域資源



野草ロールの積み込み作業



刈取った野草の集草・梱包

の有効活用につながります。また、後継者不足で野草の調達に苦労している畜産農家などに販売することで、阿蘇地域での野草の持続的な利用に貢献しています。

草原再生オペレーター組合の活動

私たちオペレーター組合は、現在11名で活動しており、8月～9月頃にかけての夏草と11月～3月頃にかけての冬草の刈取りを行っています。

また、刈取った野草はロール状にして販売しています。年間を通して注文を受付けており、阿蘇市管内にとどまらず、各地の消費者へ野草ロールを運搬しています。

昨年度は131畝の採草を行い約345トンの野草を収穫しました。採草面積は順調に増えてきています。

採草活動は、農業用機械を使用します。山の勾配が急で

あると特に危険を伴うので、細心の注意を払っています。

天候に大きく左右される場所があり、降雪があると、雪が解けて草が乾燥するまで、作業ができないことが悩みです。天候が良い日でも山に登れる人数が少なく、思うように作業が進まないこともありますが、各組合員が忙しいながらも時間を作り、精力的に活動しています。

私たちの仕事により、野焼き作業の負担軽減につながり、阿蘇の原野の美しい景観を守ることに力添えになればと考えています。



草原再生オペレーター組合
組合長 宮崎 英雄 氏



草原の可能性

草原で刈り取られた野草は、堆肥や飼料など様々な用途に使用されます。野草には多くの可能性が秘められており、今後、未だ知られていない利用価値を見出していかなければなりません。

野草堆肥で草原保全へ――

古来から伝わる野草堆肥

野草堆肥とは、阿蘇地方で古くから農家が製造し田畑に使用している有機肥料です。草原の野草(主にスキなどのカヤ類)を刈り取って、野外で半年から一年以上熟成させたものを野草堆肥と呼びます。

野草堆肥の有用性

阿蘇地方では、昔から野草堆肥を田畑に入れると、不思議と植物の病気が出にくくなると言われていました。

佐賀大学農学部 染谷 孝教授の研究室で詳しく調べた結果、野草堆肥には、植物の病気を防いでくれるたくさんの拮抗菌キョウキキンと呼ばれる善玉菌が存在することが判明しました。

拮抗菌の効果

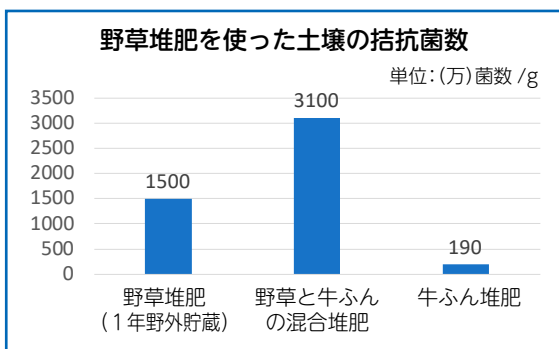
拮抗菌は植物病原菌を殺す抗生物質を分泌します。野草堆肥や野草堆肥と牛ふん堆肥を混ぜたものは、一般的な牛ふん

堆肥などと比べて数十倍以上の拮抗菌を有し、使った土壤の拮抗菌も増やします(左図)。

野草の価値を高める

昔ながらの農家の知恵が科学的に証明され、様々な農作物の栽培で野草堆肥の使用が始まっています。

野草の利用が広がり野草の価値が高まることで、採草地域が拡大し、今後の草原保全へとつながっていくことが期待されます。



草原再生オペレーター組合からのお願い



阿蘇の草原を一緒に守りませんか？

オペレーター組合 新規組合員募集

阿蘇の草原を守り、活動の幅を広げていくためにも、当団体で一緒に働く仲間が必要不可欠です。当組合の活動に興味がありましたら、ぜひご連絡ください。

【活動時期】 主に8月～9月、11月～3月

【活動内容】 重機による一連の採草作業、トラックでのロール運搬(販売先への配達など)

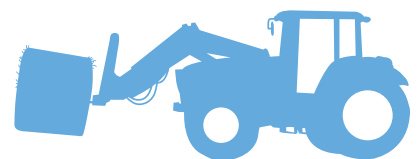
【募集資格】 20歳～40歳代で活動にご理解頂ける方、大型特殊免許取得者



牧野組合の皆さまへ

未利用草地を探しています

現在、オペレーター組合で採草できる未利用草地を探しています。当組合で野草の刈取りが可能な草地がありましたらご連絡ください。



☎ 草原再生オペレーター組合事務局：NPO法人九州バイオマスフォーラム ☎ 22-1013



公益財団法人阿蘇グリーンストック
専務理事 桐原 章 氏

(公財)阿蘇グリーンストック

阿蘇の緑を守る活動

緑を守る組織

阿蘇グリーンストックは、阿蘇地域の自然を保全することを目的に平成7年に設立しました。主な事業として、『野焼き支援ボランティア』や『農村民泊』、『あか牛のオーナー制度』などを行い、貴重な阿蘇の自然環境を後世に残していく活動を行っています。

草原を維持する野焼き支援ボランティア

草原の維持保全を担う後継者の不足や高齢化によって、牧野組合だけで野焼きができなくなっている地域に、「野焼き」と野焼き前に防火帯をつくる「輪地切り」の支援ボランティアを派遣しています。活動を始めてことしで20年

をむかえ、今では年間延べ約2500名のボランティアに参加いただいています。

あか牛オーナー制度

あか牛の放牧頭数を増やし草原を守るため、あか牛オーナーを募集しています。30万円出資することで、5年の間3カ月に一度、あか牛肉など阿蘇の農産物や加工品が届きます。現在41名にオーナー登録をいただいています。

野草の利用

野草の活用方法を探るため、昨年からカヤ材の利用を検討しています。

京都などは、国の重要文化財など茅葺^{カヤ}屋根の建物が多く残っており、全国に目を向けてもカヤは需要が見込まれています。

阿蘇には条件の良いカヤがあり、実際に京都の茅葺職人に品質の良さも認めていただ

きました。

阿蘇のカヤが農業の閑散期である冬場の新たな収入源になることを期待しています。

今後の展望

阿蘇の広大な草原は貴重な観光資源でもあり、希少な動物も多く生息しています。新たな草原の活用方法として、草原を一般に開放できないか検討しています。

牛馬を放牧している草原は、家畜伝染病を防ぐため立ち入りが制限されています。防疫等の対策や牛馬への接触を規制することで、草原の一部を開放できるよう牧野組合と調整中です。

また、これまで希少植物は、盗掘を防ぐため生息地などを隠すことで守られてきました。今後は、一般の人たちに希少種の存在を知ってもらい、普及啓発を進めることで、草原を守っていききたいと考えています。

草原の維持

阿蘇地域の牧野150組合のうち70組合にボランティアによる野焼きの支援を行っています。10年後も野焼きが継続できると考えている牧野組合は38%にとどまり、草原文化をどう継承するかが課題です。

市民の方には少しでも阿蘇の草原に関心を持ってもらい、牛を飼っている農家以外の方にも野焼きに参加していただきたいと思っています。

野焼きの初心者研修会も開催しています。興味を持たれた方は、是非ご参加ください。

野焼きボランティア 初心者研修会日程

- ① 1/12 (出) ② 1/20 (日)
- ③ 2/2 (出) ④ 2/6 (水)

※野焼きボランティアは、いずれかの研修会に参加が必要。

【申込先】阿蘇グリーンストック
☎ 32-3500